



所沢市立北野中学校 学校だより 令和7年度10月号

北野中だより

校長



新人大会市内予選会では、頑張っている生徒の姿をたくさん見ることができました。苦しくなった時からさらに自分を追い込んで走る姿。攻めや守りの切り替えの際の全力疾走。相手のシュートボールを取り、攻めに転ずる姿。相手の動きや位置を集中して確認する姿。丁寧にボールを味方につなげる姿。相手が打ったボールを必死に追う姿。強いショットを決める姿。声を掛け合い、指示を出し合って、チーム一丸となっている姿。相手の動きに対応するためにフットワークをする姿。状況を考えてプレーする姿。… など。大会での頑張りはもちろん、試合時間の何倍もの時間の練習を今まで頑張って取り組んだことと思います。

良い結果を出すことができ、さらに上の大会に進む人は、自分の今までの頑張りに自信を持つとともに、よりレベルの高い試合では学ぶことがたくさんあると思いますので、さらに頑張ってください。残念ながら良い結果が出なかったと感じた人は、この大会で学んだことや「悔しい」という気持ちを大事にして、次につなげてください。何かを感じた時に大きな第一歩が始まっています。



さて、私が部活動の顧問として、最初に担当した野球部、最後に担当した柔道部での話をします。

新人大会の後、野球部のピッチャーがひじを痛めました。その後、他のピッチャーたちとは違う練習メニューになりました。走り込みや、筋肉を鍛えるトレーニング、素振りやゴロを捕球する練習…。何カ月も、ピッチング練習はしませんでした。ピッチング練習をしたいという気持ちと、ひじが痛いのでピッチング練習はやはりできないとあきらめる気持ちで、とてもつらい日々を送ったことでしょう。そして春、ひじの痛みもなくなり、ピッチャーに復帰しました。長い時期、走り込んで足腰が鍛えられたせいか、足腰の粘りがある良いフォームになりました。また、ゴロを捕球する練習をたくさんしたせいか、守備がとても上手になっていました。ひじを痛めピッチング練習ができないというピンチを、足腰をきたえるチャンスとして取り組めた成果、本人が苦しい状況を乗り越え、頑張った成果だと思っています。

柔道部では、スピードはあるけれど、持久力に課題があるという部員が、新人大会で肩をけがしました。その後、練習は、走り込みや、足腰の筋肉トレーニング中心になりました。数カ月たち、肩のけがも完治したころには、ずいぶん持久力がついていました。最後の大会の市内予選では、対戦相手と実力が互角で、とても長い試合となりましたが、粘りに粘って勝つことができました。

新人大会で学んだこと、頑張ったこと、思ったことを大事にして、次の成長につなげてください。みんなが持っている大きな可能性の芽を、大きく育てていってください。

